

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和5～7年度)	事業の成果 (令和5年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業 別概要ペー ジ)
1	○	地域リハビリテーション活動支援事業費	地域における介護予防の取組を強化するため、通所・訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職の関与の機会を設ける。	ケアマネジャーや介護サービス提供事業所職員などに対し、高齢者のアセスメントの協働などに219件、介護予防普及啓発など住民運営の通いの場へ12件、計231件にリハビリテーション職をはじめとする専門職を派遣。介護事業者や住民主体のグループの質の向上に寄与した。	地域の介護サービス事業所職員に対し、リハビリテーション専門職など医療の専門職を派遣し、協働することにより各専門的知見を高齢者支援の現場に適用する機会を設けた。派遣先からは「専門的評価により支援方針が決定できた」「日常生活上の実践的なヒントが得られた」など質的にも概ね良好な評価が得られた。	より多くの事業者が質の高いサービス提供ができるよう、当事業の周知や広報活動を推進していく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	401
2	○	高齢者介護予防・地域活動等支援バス運行事業費	高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進、地区公民館を拠点に活動している団体の地域活動や研修会等に参加する機会の拡大を図るため、高齢者介護予防支援バス・地域活動支援バスを運行し、高齢者団体等のレクリエーション活動や研修活動、ボランティア活動などを促進する。	高齢者介護予防・地域活動等支援バスの運行 令和5年度実績 ・旧高齢者バス 485件 ・旧ボランティアバス 17件 ・旧公共交通機関利用助成 121件	高齢者介護予防・地域活動等支援バスの運行や貸切バスを利用した高齢者団体の地域活動を支援することで、高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進することが、引きこもりの防止等介護予防につながる、結果、健康寿命の延伸が図られた。	引き続き多様な活動を支援するために高齢者介護予防・地域活動等支援バス運行事業を行い、高齢者の社会参加と生きがいづくりを促進することにより、引きこもりの防止等介護予防、健康寿命の延伸を図る。	福祉部	長寿社会課	118
3	○	単位老人クラブ活動補助金	地域の支え合いや地域を豊かにする活動の活性化を図ることで、高齢者のつながりや生きがいを高めるとともに、健康づくりを推進するため、老人クラブの活動を支援する。	老人クラブの活動に対する助成 ・支援団体数 211クラブ ・助成額 老人クラブ連合会加入 20千円～74.7千円 老人クラブ連合会未加入 10千円～37.3千円	老人クラブの活動を支援することで、高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進することが、引きこもりの防止等介護予防につながる、結果、健康寿命の延伸が図られた。	老人クラブは、会員の健康づくりや介護予防の取り組みに加え、子どもの通学時の見守り活動や小学校花壇整備等のボランティア活動なども行っている。地域福祉の重要な担い手として更なる活動の展開が期待されることであるが、クラブ数及び会員数とも減少傾向が続いていることから、会員の増加に向けた取り組みを行っていく。	福祉部	長寿社会課	121
4	○	地域ふれあい事業費	ふれあいのあるあたたかい地域づくりができるよう、しゃんしゃん体操を普及させることで、元気で活動的な高齢者を増やし、健康寿命の延伸を図る。	普及員スキルアップ研修 2回 しゃんしゃん体操事業検討委員会 1回 しゃんしゃん体操普及員連絡会会議 3回 しゃんしゃん体操普及員による活動 27地区 地域でのしゃんしゃん体操実施回数・人数 1,341回、延べ19,761人 しゃんしゃん体操普及員支援講座 6地区実施	しゃんしゃん体操を通して、高齢者の体づくり、介護予防やふれあいのある地域づくりに取り組むことができた。また普及員の支援講座を実施し、普及員が感じているそれぞれの地域に応じた課題の解決に努めた。しゃんしゃん体操のスキル向上のための研修会を開催し、普及員の資質向上と普及員同士の交流を図り、今後の活動に活かせる活動の支援を行った。	今年度は新たな普及員を養成し、地域での啓発活動を安定的に実施することが必要と考える。普及員同士のつながりの醸成や、普及員が積極的に活動を行い、普及員活動を継続していきけるような支援の体制についての検討していきたい。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	122
5	○	福祉ボランティアのまちづくり事業助成交付金	高齢者が社会参加活動を通じて要支援・要介護状態になることを予防し、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、高齢者等が気軽に集まれるサロンの開設・運営を支援する	サロン数：379 ※うち、補助金対象となるサロン（結成して1、2年目）44 サロン開催数：9,653回 合計参加者：67,448人（見込み）※実績が確定するのは7月中旬	ふれあいいいききサロン開設・運営の支援により、地域の通いの場や集いの場が維持されている。	ふれあいいいききサロンはサロン代表者や生活支援に取り組む地域福祉関係者の高齢化に伴う担い手不足が大きな課題であり、近い将来大幅な減少が予想される。一方で住民主体のサロンだけではなく公民館事業や地域食堂、スーパーのイベントスペースなどの企業や団体の通いの場も増えてきている。周知不足や移動手段がないなどで知らない、行くことができないという声もあるため、関係機関などに通いの場の情報共有を行い、必要な人に情報提供ができるようにしていく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	123
6	○	老人の明るいまち推進事業費	高齢者の仲間づくり、健康づくり、生きがいづくりを図るため、趣味の教室や各種スポーツ大会、社会奉仕活動、健康講座等の多様な活動の機会を提供する。	・趣味の教室、作品展、各種スポーツ大会の実施 趣味の教室 445人 作品展 190人 各種スポーツ大会 566人	趣味の教室、作品展、各種スポーツ大会を実施することで、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを推進した。多様な活動が引きこもりの防止等介護予防につながる、健康寿命の延伸が図られた。	引き続き多様な活動の機会を提供し、高齢者の仲間づくり、健康づくり、生きがいづくりを推進することにより、引きこもりの防止等介護予防、健康寿命の延伸を図る。	福祉部	長寿社会課	124

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和5~7年度)	事業の成果 (令和5年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
7	○	ねんりんピック推進事業費	令和6年10月19日から22日まで第36回全国健康福祉祭を開催する。本市は6種目(ゲートボール、テニス、サッカー、ボウリング、太極拳、俳句)の競技種目の交流大会を開催する。	・大会運営リハーサル ゲートボール大会(10/15)160人、俳句大会(11/19)1,179人(募集句含む)、太極拳大会(11/26)120人 ・イベントPR 鳥取市花のまつり(4/29)20,000人 鳥取しゃんしゃん祭(8/14)200,000人 鳥取市木のまつり(11/3)30,000人 カウントダウンボードお披露目会(10/20)200人	ブレ大会を開催し大会運営体制を検証したり、市民へのPRを展開するため各種イベントに参加し普及啓発を行った。	ねんりんピックの成功に向け、各競技協会や関係団体と調整を行いつつ準備を進めていく。	福祉部	長寿社会課 (ねんりんピック推進室)	125
8	○	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業費	高齢者の心身の多様な課題に対応しきめ細やかな支援を実施するため、保健・医療・介護分野で連携して迅速かつ効果的にアプローチし、フレイル(心身の脆弱)予防を推進する。	市内13の日常生活圏域(概ね中学校区)で実施 個別支援:(実)87人 集団支援:(延)808人 通いの場の箇所数(実)35箇所	フレイル中重度者を対象とした個別支援では、複数職種による訪問等支援により、フレイル状態の高齢者が自身の生活課題を把握して次の健康行動につながるよう効果的で効果的なアプローチに取り組んだ。 通いの場を対象とした集団支援では、参加者のフレイル状態把握と健康教育を一体的に行い、社会参加の重要性や生活改善に向けた意識の変化が見られた。また、多機関・多職種で連携して実施することで、個別支援や地域づくりに向けた取組みへの波及効果があった。	市内18圏域中13の日常生活圏域で実施しており、令和6年度は市内18圏域全てに拡大予定。少しずつ取り組みを広げているが、実際に関与できているのはまだ限られたサロンや少数のハイリスク者にとどまっているため、実施体制の拡充と同時に、住民自身が地域でフレイル予防に取り組めるような仕組みづくりについて継続して検討していく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	127
9		自死対策強化事業費	主に働き盛り世代のメンタルヘルスに関する知識の普及と心の健康に関する相談体制を整備し、自死予防を図る。	・心の健康、自死予防に関する普及啓発の実施 自殺予防週間や自殺対策強化月間等の機会を通して、パネル展示、チラシや啓発物の配布、ホームページや市報に掲載。 ・企業向けメンタルヘルス出前講座及び研修会:15回開催、参加者数347名 ・心の健康相談件数:訪問 延べ259、面接 延べ202、電話 延べ897	・様々な機会を通して、心の健康、自死予防に関する普及啓発を行い、正しい知識や相談窓口の普及啓発を図った。 ・若年層に対して、大学祭やガイダンス時等の際にチラシ配布やパネル展示等を行った。若年層における令和5年度の自殺死亡率は令和4年度と変わらなかった。	・働き盛り世代の自死者数が増加しているため、企業向けメンタルヘルス出前講座や研修会等の機会を捉え、普及啓発を行っていく。 ・若年層への自死対策に関して、引き続き大学祭やガイダンス時等の機会を捉え、普及啓発を行っていく。	健康こども部鳥取市保健所	心の健康支援室	171
10	○	健康診査費	健康増進法に基づく各種健康診査を実施し、健康意識の向上、生活習慣改善、疾病の早期発見・早期治療を図る。	69歳以下受診率(見込み) 胃がん検診 33.0% 肺がん検診 32.5% 大腸がん検診 34.7% 子宮がん検診 70.3% 乳がん検診 58.7% ※子宮、乳は2年に1回の受診率	がんは死因の1位で、その約3割を占めている。対象者のがん検診の受診機会の確保により早期発見・早期治療を図ることで、がんによる死亡率の減少につながっている。	働き盛り世代の受診率が伸び悩んでいる状況にあるため、企業等と連携した啓発活動や効果的な個別勧奨通知による啓発を行う。また、WEB予約を全市域に拡充するなど受診しやすい体制を整備する。	健康こども部鳥取市保健所	健診推進室	176
11	○	健康教育・健康相談・訪問指導事業費	生活習慣病及び介護を要する状態になることを予防し、健康づくりを支援するため、健康教育・健康相談・訪問指導を実施し、適切な指導や支援を行う。	健康教育、健康相談、訪問指導を実施 【教育】〔成人保健〕健康に関する知識の普及・啓発(142回 延べ2,675人)、〔学校保健〕(わくわく元気教室)将来の生活習慣病予防に向けた知識の普及・啓発(23回 延べ981人) 【相談】個別相談による住民の健康不安の解消、健康づくりへの助言(267回 延べ3,844人) 【訪問】看護師・保健師・栄養士の実地訪問による支援(延べ523人)	糖尿病等の生活習慣病は、死亡や要介護状態の主な原因の一つとなるなど、本市においてもその対策が急務である。特定保健指導対象以外の方への保健指導についても、より適切かつ効果的に保健指導を実施した。	特定健診の結果で、生活習慣の改善が必要な方を対象に保健指導を実施する。また、地域においても日頃より生活習慣病予防や健康づくりの意識を醸成することが必要である。	健康こども部鳥取市保健所	健康づくり推進課	176
12	○	シルバー人材センター運営補助金	高齢者の意向に応じた臨時的・短期的な就業機会の提供を行う「公益社団法人鳥取市シルバー人材センター」の運営を支援し、高齢者の豊かな生活の確保や生きがいづくりを図る。	【会員数】734人 【就業率】87.3% 【派遣件数】101件 【受託・派遣事業総実績】305,185千円	就業による高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくりを創出し、活力ある高齢社会と地元企業の人材不足解消に貢献している。	(公社)鳥取市シルバー人材センターは、就業による高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくりを創出し、活力ある高齢社会と雇用の創出に貢献する中核的な組織であり、地元企業の人材不足解消に向けても、引き続き支援を行っていく必要がある。	経済観光部	経済・雇用戦略課	181

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和5~7年度)	事業の成果 (令和5年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
13	○	特定健康診査等事業費	医療費の適正化を総合的に推進するため、40歳以上の被保険者に対して生活習慣病に着目した特定健診・特定保健指導を実施する。	本市国民健康保険被保険者を対象とした、特定健診、特定保健指導の実施 特定健診受診者数 8,636人(見込み) 受診率 35.5%(見込み) 特定保健指導実施率 31.0%(見込み)	中長期的な医療費適正化と健康寿命の延伸に結びつく法定事業であり、受診率の向上と保健指導の実施により、生活習慣病の発症予防および重要化予防につながっている。	近年、特定健診受診率は若干の上昇傾向、特定保健指導実施率は横ばいの状況にある。今後も効果的な啓発活動や受診勧奨、保健指導の利用勧奨を推進していく。	健康こども部鳥取市保健所	健診推進室	393
14	○	高齢者健康教室事業費	高齢者を対象とした健康教育を実施することで、介護予防に関する知識の普及・啓発を行い、自主的な活動ができるよう支援することで、介護予防及び健康寿命の延伸を図る。	高齢者健康教室の実施 回数 261回 参加者数 延べ2,745回	高齢者を対象として介護予防に関する知識の普及・啓発を行い、高齢者自身が介護予防のために自主的な活動ができるよう支援を行った。	イベント等も再開されてきており、多数の住民へフレイル予防や生活習慣予防について理解してもらえるような啓発を企画したい。また、運動器機能の低下の防止と閉じこもりを予防するため、地域で自発的に運動や交流などの取組みができるように支援が必要である。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	399
15	○	介護予防普及啓発事業費	地域における高齢者の自発的・継続的な介護予防の取組を促進するため、地区公民館等での出前講座の開催等を通じて、高齢者に介護予防に関する基本的な知識の普及啓発を行う。	・介護予防に関する出前講座の実施 計92回、参加者数 延べ1,288人 ・フレイル予防に関するホームページを作成 ・フレイル予防啓発ポスターをスーパーや公衆浴場、各関係機関等へ配布 ・フレイル予防月間(2月)に、フレイル予防フェスタにてフレイル予防啓発を実施。また同月間にバスマスク(くる梨)でフレイル予防について啓発。	令和4年度は介護予防に関する出前講座の実施回数が89回、参加者数が延1,186人であったが、令和5年度は回数・延べ参加者とも増加した。出前講座やイベントやチラシ配布等の普及活動を通じて高齢者等へ介護予防に関する基礎知識の普及が図られた。	出前講座を申込する高齢者グループが固定化しているため、イベントや様々な媒体(チラシ、インターネット、ケーブルテレビ等)を通じて、多くの方に介護予防の取組を啓発し、充実を図っていく。今後も対象の高齢者グループに必要な講座のテーマや内容を積極的に提案していき、自発的・継続的な介護予防の取組を促進していく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	400